





## I 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。

水との関わりという点において屋内環境を支える重要な要素は防水だろう。温度や湿度もさることながら、水環境的に屋内を際立たせているのは「乾いた平坦な床」という特徴である。私たちは自らの日常生活を水平で平坦にし、さらに念入りに乾かして生活している。乾燥は人にとっての快適さだけでなく、人の居住空間における他の生き物の生存を難しくする。乾燥によって私たちは人間以外のコントロール不能な生き物、昆虫やビセイブツや菌類などを屋内から排除している。犬や猫などのペットを飼う場合もあるが、屋内で飼育される限り、それらの動物も給餌や排泄は注意深くコントロールされ、乾いた清潔な空間で人と共存できるようにトレーニングされる。トレーニングできない生き物はケージや水槽に閉じ込められ、人の居住空間と峻別されている。乾いた平坦な床に水が浸入しないようにする技術が防水である。(略)

防水技術によって生活空間から水を排除したうえで、望むときに水にアクセスできる工夫が水の設備・装置として設置される。その工夫がたとえば洗面器のボウル型の造形にあらわれている。キッチンのシンクや洗面所の洗面器やトイレの便器、あるいはバスルームの浴槽や床などはすべて、水が溢れて床を濡らさないために排水口に向けて集水する造形が施されているが、この形状は象徴的である。水道口から流れ出た水が水滴となって空中を落下する。凹状の形がそれを受け止め、水は傾斜にそって最も低い地点に流れ集まり、排水口から出てゆく。この造形と水の動きの関係は、河川の集水域の水と地形の関係に似ている。集水域をなす分水界で囲まれた地形を作ること、水が浴槽や洗面器から出て拡大することが防がれている。水の特徴のひとつは、異なるスケールで似

たような振る舞いが見られることだ。液体としての水の性質と重力による動きが共通しているからだろう。そのため、異なるスケールの現象を比喻として理解しやすい。集水域を作る降雨と集水の組み合わせは建物の屋上や道路の水勾配と集水桝にも、バスルームのシャワーと排水溝にも、キッチンの水道とシンクにも見られる。水の範囲を限定するために、そこかしこに小さな集水域が作られているわけだ。水をシャダンして乾いた領域を確保する方法は都市のスケールでも行われている。河川と宅地をへだてる堤防も、陸地を高潮や津波から守る防潮堤も同じ思想と方法で作られている。その良し悪しはさておき、海や川と街をへだてる土木構造物の思想的な根拠は水道水が飛び散らないように凹んだ形をしている洗面器と同じところにあるということだ。

浴槽やシンクや洗面器は、集水する地形として機能するとともに、水をせき止めて一時的に湛えるための装置としても使われる。水は地球規模で循環している。海や川の水は太陽熱で蒸発して雲となり、雨になって地上に降ってくる。雨水は地上で地形にそって流れ、あるいは土や岩を侵食して地形を作り、地上を流れたり地下に浸透したりしつついずれ海に流れ出る。水の循環の動力源は重力と太陽熱である。このような水の有様も、スケールを変えた再現が身の回りに見られる。たとえばバスルームのシャワーである。頭の上から水が降り注ぎ、足元の排水口へ流れる様子は水の循環の再現に見える。ただしバスルームで頭上に水を押し上げるのは太陽熱ではなく上水管にかかっている水圧であり、その水圧はポンプなどの動力で作られている。そのようにぐるぐると流れ続ける水を部分的にせき止めることで、私たちは水を使ってきた。「流れる水をせき止める」と言えば思い浮かぶのはダムや貯水池などの土木構造物だが、水田も水を貯留して使う営みである。小さなスケールでは食器

も同じものだと言えるだろう。水道水を飲むときも流水をコップに受け、食器がなければ手で受ける。水を受けるときの手の形はお椀にも洗面器にもダムにも似ている。

循環のなかで部分的にせき止めて利用するという水との関係の最も「身近」<sup>エ</sup>で端的な例が私たちの身体ではないだろうか。私たちの身体も地球上を循環する水の一部としてある「水系内存在」である。人の身体の水分率は五〇―五五%だと言われている。身体内の水は、血液や消化液などの「自由水」と、体内組織の成分としてある「組織結合水」に分かれて存在する。自由水は、約四〇分で身体内を一周すると考えられている。身体には一日二・五リットルの水が補給され、体内を循環し、同等の量が排出される。身体は五〇リットルの水が巡る循環系である。

一方で、先に述べたように私たちは自分の身を置く空間から水を排除し乾かしている。ここに、私たちの身体と水との関係のジレンマのひとつがある。身体は水を抱えた保水体なのだが、外側は乾かしておきたい。周囲の空間ばかりでなく、身体の表面もツルツル・サラサラにし、乾いた衣服で身を包む。身の回りにある水の装置や設備の工夫、水を制御してアクセスを容易にしつつ乾いた領域を確保するという性能はほとんどこの身体のジレンマによる要求に由来すると言っていいだろう。

身体と水の関係にはもうひとつのジレンマがある。私たちが身体に取り入れる水と、身体から排出される水を強く区別してしまうということである。飲む水にせよ、料理に使う水にせよ、手を洗ったり身体に浴びたりする水にせよ、私たちは「入ってくる水」にはとても敏感で、その品質にこだわる。それは私たちの健康に関わるからでもあるが、都市に住む私たちに供給される水は河川の上流で集められ、ろ過され消毒されてそのまま飲める品質にされて「上水」と呼ばれる。一方、私たちが身

体を洗った水や排泄される水はすべて、素早く排水口を通じて地中の管に流される。これは「下水」と呼ばれる。私たちの居住空間を乾かしておくために設置されている「集水域造形」は、「汚れた」下水を素早く消し去るための形でもある。

それぞれ、都市を支えるインフラ<sup>(注5)</sup>である「上水」のシステムと「下水」のシステムが切り替わる点は私たちの身体である。上水は私たちの身体を通じて下水に変わる。その瞬間にだけ、私たちは生の水に触れる。または、私たちの身体が「上水」と「下水」を接続している、と言えるかもしれない。私たちの身体の構造に由来する生活環境への要求を支えるために水の装置はデザインされ、それを支えるために水のインフラが作られてきた。都市が乾いた床と水を強く分けた構造であるのは、私たちの身体の事情の投影にほかならない。

これが端的にあらわれているのはトイレだろう。トイレは排泄物、つまり私たちの身体を循環したのちに流れ出ていく水分などを素早く流す装置である。便器は私たちの身体形状に合うように立体的に造形され、排泄物に触れずに用を足すことができるようにデザインされている。便器の縁の座面はとても注意深く掃除されて清潔に保たれていて、私たちの肌が直接触れるのはその面だけである。水洗のための水は、便器に流れ出た途端に上水から下水に変わる。その変化は便器の中で起きる。トイレには都市の水の様態がギョウシュク<sup>キ</sup>され、象徴的にあらわれている。

(石川初「循環する水の身体の都市」、出題上の都合により一部改変)

注1 ケージ——鳥かご、檻おび。

注2 分水界——二つ以上の川の流れを分かつ境界。

注3 水勾配みずこうばい——効率的な排水のためにわずかに傾斜させた勾配。

注4 集水桧しゅうすいまつ——排水などの合流点や分岐点に設ける桧。

注5 インフラ——インフラストラクチャーの略で、産業や社会生活の基盤となる施設。

問一 二重傍線部 a 「際立たせて」の意味として最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- ① 安全を保たせて
- ② 他より優れさせて
- ③ 危険から回避させて
- ④ 他から区別させて

問二 二重傍線部 b・d・e と同じ漢字を用いるものを、次の①～④からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- ② b 「ビセイブツ」
  - ① 人情のキビに通じる
  - ② ケイチョウに値する
  - ③ 推理小説のハクビ
  - ④ 会費をチョウシユウする
- ③ d 「ヘダ」
  - ① カクセイの感
  - ② 地盤がカンボツする
  - ③ リンカクを描く
  - ④ 関税シヨウヘキ
- ④ e 「ギョウシユク」
  - ① モギ試験の結果
  - ② コった演出
  - ③ 悪人をコらしめる
  - ④ チキユウギを回す

問三 二重傍線部 c 「シャダン」の漢字表記で用いられる部首を、次の①～④から一つ選びなさい。

- ⑤ ① うかんむり
- ② りつとう
- ③ しんによう
- ④ しめすへん

問四 傍線部 a 「乾いた平坦な床」とあるが、なぜ生活空間を乾かすのか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- ⑥ ① 屋外の温度や湿度を人にとって最適なものにするため。
- ② 人間にとって気持ちのよい居住空間を実現するため。
- ③ 人間の制御できない生き物にも居場所を与えるため。
- ④ ペットに合わせて人が住めるような環境をつくるため。

問五 傍線部 i 「この形状は象徴的である」とはどういうことか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- ⑦ ① 河川の集水域にだけ見られる液状の水の性質が、洗面器の造形という身近な場所にもあらわれているということ。
- ② 排水口に水を集める形状は、防災の発想だけでなく、自然環境も配慮した思想と方法に裏打ちされているということ。
- ③ 屋内から効率的に排水する都市家屋の設備には、人類が積み上げてきた歴史的な知見が示唆されているということ。
- ④ 浴槽などに見られる集水の造形は、土木構造物にも通じる、乾燥した領域を確保する思想を示しているということ。

問六 傍線部ウ「このような水の有様も、スケールを変えた再現が身の

回りに見られる」と言えるのはなぜか。筆者の考えの説明として最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- ⑧
- ① 大地の地形にそって水が流れていく様子は、水平な床の作り  
に即して水が排水口に流れていく浴室を連想させるから。
- ② 動力源に違いはあるものの、上から流れた水が重力で下に流  
れていく点では、雨水も浴室のシャワーも似ているから。
- ③ 浴室ではポンプが水圧を作り、地球上では太陽熱が雲を作る  
が、いずれの場合も水流の強弱に影響を与えているから。
- ④ 海水が地上への降下と空中への上昇をくり返す様子は、シャ  
ワーから出た水が再利用される過程と類似しているから。

問七 傍線部エ「端的な例が私たちの身体」について、以下の問いに答

えなさい。

(1) 「端的」の意味に最も近い言葉を、次の①～④から一つ選びなさい。

- ⑨
- ① 特殊      ② 些細      ③ 鋭敏      ④ 明白

(2) 「私たちの身体」の説明として最も適切なものを、次の①～④から  
一つ選びなさい。

- ⑩
- ① 海や川と違って循環機能より保水機能が発達している。
- ② 補給する水の量と排出する水の量を強く区別してしまう。
- ③ 水を蓄えて入れ替えるので体外の水環境と連続している。
- ④ 半分以上が水分のため降雨などから強い影響を受ける。

問八 傍線部オ「この身体のジレンマ」とはどのような状態のことをあ

らわしているのか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びな  
さい。

- ⑪
- ① 体内に多くの水分を含むのに体表や住居には乾燥を欲すると  
いう、水量の多寡について身体の内外で相反する状態。
- ② 水の装置を工夫して快適な空間を作り出せば、その分だけ身  
体に必要な水を得るのが難しくなる矛盾した状態。
- ③ 私たちが空間を乾かすことは他の生物を生きづらくするが、  
そのことが人の身体にも害を与えてしまう皮肉な状態。
- ④ 内へ取り込む水は清潔で外へ排出される水は不潔だという、  
身体を基点に水への主観的な価値づけが生じる状態。

問九 傍線部カ「上水」と「下水」の共通点は何か。最も適切なもの

を次の①～④から一つ選びなさい。

⑫

① 水の品質と由来に関し、人間の価値観が全く介在していない  
点。

② 水と身体との関係性を垂直方向に捉えてデザインされている  
点。

③ 身体からの出入に基づいて呼び分けられる人工的な呼称であ  
る点。

④ 健康状態を最優先に考え、自然の河川のみを供給源としてい  
る点。

問十 傍線部キ「これ」とはどういうことか。最も適切なものを次の

①～④から一つ選びなさい。

13 ① 都市生活は水のインフラに支えられており、それらは私たちの身体が要求する衛生の保持にも欠かせないということ。

② 上水と下水を媒介する身体づくりや求めに対応する形で、都市の構造や水の装置が設計されてきたということ。

③ 人間の身体は都市の構造などから影響を受け、清潔で滑らかな形状への変化がもたらされているということ。

④ 一度使った水が飲料水になるように、下水と上水を循環させるなかだちが私たちの身体であるということ。

問十一 問題文の内容と合致するものを、次の①～④から一つ選びなさい。

14

① 多量の水分で構成された身体を持つ私たちもまた、地球上を循環する水の一部としての「水系内存在」である。だとすれば、

地球規模の環境に配慮した水の装置やインフラ、ひいては都市構造の設計が、引き続き今後の課題となることは間違いない。

② トイレの便器は排水口に向けて水を集める工夫がこらされた「集水域造形」の一つだが、中でも便器は特異な位置にある。

なぜなら、身体の形に即して湾曲した座面が水面から離れることで、上水から下水への転換が装置の中でだけ起こるからだ。

③ 清潔や快適さをもとめる人間は、水を排除しながら生活の必要に応じて使う。また、身体からの出入りを基準に汚水と飲料水を区別しもある。こうした恣意的な水とのつきあい方は、他の生き物には見られない、都市化したヒト特有のものだろう。

④ 洗面所の洗面器やバスルームの浴槽は、集水して居住空間を乾かすための形に設計されている。一方でそれらの造形物は、循環する水を部分的にせき止めて使うためにも、さらには、一度使用した水を素早く流し去るためにもデザインされている。

## II 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。

詩における型は「定型」と呼ばれる。特定のインリツや音数に則つて言葉配列するための定まった枠組みという意味だ。まずは、型を言葉の配列ルールという狭い視野ではなく、もう少し大きく「型」という観点から考え直してみたい。

生命科学者で武道の段位取得者でもある大庭良介は、<sup>(注1)</sup>「事物の枠組みや分類方法としての型」と「叡智の表現・伝達方法としての型」の二種類の型の存在を指摘している。

前者は、僕らが何かの属性で物事を分類する際に用いる尺度や枠組みのようなもの。血液型や特定のパターンといったものがこれに該当する。今回論じたいのは後者だ。茶道や武道では、一定の所作や動作が厳格に定められており、実践者はそれを正しく遂行することを求められる。そうした一連の動きを型と呼ぶ。ただし大庭は、型がただ定められた手続きのようなものではないことを強調する。

「型」を習得するということは、想定と動作をなぞれるようになることではなく、想定と動作が要求する身体を獲得することにある。つまり、「型」を通して「型」が身体化されている場合、「型」の想定に囚われることなく、獲得した身体から技を自由自在にくり出せるようになるということである。

型を習得するゴールは、ただ単に動作をコピーするのではなく、その型を身につけることを通して、そこに秘められたより深い叡智を身につけることにあるという。

では、型などというものを通さず、その叡智に直接アクセスすることはできないのだろうかという疑問が湧く。大庭はそれはできないと述べ

る。それどころか、型を自分なりにアレンジしたり、分解して部分的に習得することは御法度だという。

武道における「型」は、身体の部分と全体の統合と制御の法を授けるものである。ボールを投げるのには肩を使うから、速いボールを投げるために肩を鍛えましょう、つまり「作用する部分を特定して、その部分を鍛錬しましょう」というのがいわゆるスポーツ科学的な発想である。<sup>(中略)</sup>「型」の発想は逆である。部分は特定しないし、特定の鍛える部分も存在しない。「型」の動作・姿勢を通して、手足といった部分を全体の身体操作の中に位置づけることを学習し、手足といった特定の部分に着目するのでは獲得できないような働きを体得するのである。

なぜ型は分解したり、一般化したりできないのだろうか。そこには型が効果を発揮する分野（あるいは型が指向する境地）が要求する二つの特徴が関係するように思う。身体を例にあげよう。

まず、身体はおよそどんな人にも共通する特徴がある一方で、個々の身体は年齢、身体的性別、鍛錬度など千差万別であり、そうしたものに對する包括的な理論は構築不可能だ。もう一点、身体というシステムは個々の部位単独で機能するのではなく、他の部位との連関によって有機的に作用する。

以上の「A」とのせめぎ合い、「システム全体での連関」という観点から、型が求められるような分野では過度な一般化や分解が通用しない。その代わりに、型を習得するプロセスで、型の叡智に触れ、自らの身体と型に込められた叡智とを接合させる。そうした実践者の個別性、型に込められた総合性が型の型たる所以なのだろう。

右記の通り、型とは「何かを実践するために定められた一定の形式」

であり、「型を実践していく過程で型に込められた叡智を習得できる」ものとしたならば、ある一定の枠組みの中で創作を行う詩歌にもそうした側面を見出すことができる。

もちろん、音や形式を墨守することで言葉を配列する詩歌の型と武道の型とは異なる点も多いので、慎重に考察を進めたい。

そのための補助線として、<sup>工</sup>事務と文学との関係を論じた、英文学者・阿部公彦『事務に踊る人々』を参考にしてみる。まず阿部は「事務という定められた形式を遵守する行為」と「道に従って歩くこと」とを比較する。

事務という定められた枠組みにただ従う行為、同様に自らの主体的な意思ではなくただ敷かれたルールを黙々と歩いていく行為には共通点がある。それは主体性の欠如である。すでにある手続にソウだけだから当然だ。だが、少し意識を持って、事務書類や道の標識に目をこらすことで、その書類が属しているシステム、その道が存在している街という、部分と全体に意識が向く。阿部はその境地を次のように述べる。

小説の貴重な原理をなすのは「道を歩く者だけが、道のもつ支配力を経験する」という実感である。しかもこの歩行は言葉を介して表現される。そこには言葉を書き写すようにして道を書く、という事態が出現する。道を書く者にとって、道は絶対的な無時間と他者性を体現し、そのおかげで **B** ことを可能にしてくれる。これと同じように道を書くようにして言葉と接することで、自分を超えて書いたり、語ったり、そして読んだりすることが可能になる。それを可能にするのが <sup>注3</sup> エクセルにソウって歩く、ということなのである。エクセルの枠が生み出す網状の広がり、私たちの現実をまったく新しい形に裁断していく。

この箇所だけでは少し難解だが、これまで見てきた型のあり方を重ねると、意味が明瞭になる。

型や道は他者である。従って、型を学んだり、道を歩いたりする行為は、他者に自らをソわせること、引いては他者に近接することができる。だが、あくまで他者は他者であるために、完全に同化することはできないし、自分のものとはできない。

道の例で言えば、道が整備されていないような大草原を歩くとき、人は自らの主体性を求められる。一方、ルールを歩くためには、何も考えずともよい。だが、自分が道を歩いていることを自覚しつつ道に従って歩けば、その道の形状や目的といった他者に接続することで、自分の立ち位置をハアクすることができる。

そして阿部はそれが文学にも共通すると述べている。ここでは小説とされているが、詩歌の定型としてもしっくり来る。定型という「無時間と他者性」によって、<sup>きょうめい</sup>狭隘な自己を抜け出すことができる。ちようど、ただ一人で歩くのではなく、道という人工物によって、他者と繋<sup>つな</sup>がれるようなものだ。

(渡辺祐真「定型という魔法」、出題上の都合により一部改変)

注1 大庭良介——一九七七年。日本の生命科学者。本文中の引用は大庭良介『型』の再考』による。

注2 阿部公彦——一九六六年。日本の英文学者。本文中の引用は阿部公彦『事務に踊る人々』による。

注3 エクセル——Microsoft社が販売する表計算用ソフトウェア。表に数値を入力することで計算やグラフの作成等を行う。

問一 二重傍線部 a・b の漢字表記で用いられる部首を、次の①～④からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- 15 a 「インリツ」  
① にんべん ② ぎょうにんべん  
③ かいへん ④ こぎとへん

- 16 b 「ク」  
① きへん ② てへん  
③ のぎへん ④ いとへん

問二 二重傍線部 c 「千差万別」に最も近い意味を持つ表現を、次の

①～④から一つ選びなさい。

- 17 ① 蓼食<sup>たぐ</sup>う虫も好き好き  
② 前門の虎、後門の狼<sup>おおかみ</sup>  
③ 千思万考  
④ 青は藍より出でて藍より青し

問三 二重傍線部 d・e と同じ漢字を用いるものを、次の①～④からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- 18 d 「ソ」  
① エンマンに退職する ② 注意がサンマンになる  
③ 母校のエンカクを知る ④ 生徒会にサンカクする  
19 e 「ハアク」  
① 稲をイチワに束ねる ② オカンを覚える  
③ 影響がハキユウする ④ ハケンを争う

問四 傍線部ア「定型」とあるが、定型作品をまとめたものはどれか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- 20 ① 宮澤賢治『春と修羅』 ② 斎藤茂吉『赤光』  
③ 萩原朔太郎『青猫』 ④ 中原中也『山羊の歌』

問五 傍線部イ「型」が身体化されている」とはどういう状態のことか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- 21 ① 「型」が想定する技術と動作を誤ることなくなされる状態  
② 技術や動作をごく自然な身体的反応として行える状態  
③ 集中力を高めることで複雑な技を自動的に行える状態  
④ 「型」が要求する叡智を自由自在に使いこなしした状態

問六 傍線部ウ「部分は特定しないし、特定の鍛える部分も存在しない」のはなぜか。筆者の解釈を説明したものとして最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- 22 ① 武道において「型」から逸脱することは禁忌であるから。  
② 異なる人間の身体のシステムに共通点は想定できないから。  
③ 「型」の境地はスポーツ科学的な発想とは相容れないから。  
④ 「型」では部位の機能より全体的な相互作用を重視するから。

問七 空白部[A]に入る言葉として最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- 23 ① 精神・肉体と総合・部分 ② 個別・具体と抽象・一般  
③ 理念・理想と現実・実際 ④ 全体・総合と抽象・具体

問八 傍線部「事務と文学との関係」について、両者の実践に共通して必要とされるものは何か。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- 24
- ① 未知の大草原を踏破しようとする主体性
  - ② 誰にとつても客観的でわかりやすい道の標識
  - ③ 自分が道を歩いていることに対する自覚
  - ④ 道という人工物を共に歩く他者

問九 空白部「B」に入る言葉として最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- 25
- ① 道に従って歩く
  - ② 標識に目をこらして歩く
  - ③ 自分を超えて歩く
  - ④ 道のない大草原を歩く

問十 傍線部「現実をまったく新しい形に裁断していく」とはどういうことか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- 26
- ① それまで見ていた同じ世界を、今までは異なる仕方で見えなくしていくこと。
  - ② 他者が通常見ている世界とはまったく別の、新しい世界に出会うこと。
  - ③ 現実をあいまいに捉えるのではなく、一定の枠組みに従って正確に理解すること。
  - ④ 他者とのあいだで共有された価値規範に従い、現実の主観的な捉え方を退けること。

問十一 傍線部「それ」とは何か。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- 27
- ① 自らの行為に対する自覚
  - ② 行為における主体性の欠如
  - ③ 絶対的な他者
  - ④ 他者を介した自己相対化

問十二 問題文の内容と合致するものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- 28
- ① 武道における「型」は、深い叡智のなかに自己を解消させるためのものである。その際、動作や技術を習得すること自体よりも、自己という主体を退けていくことが肝要とされる。
  - ② 「型」は伝承者が恣意的に分解したり、一般化したりすることは絶対に出来ない。なぜなら「型」を習得するプロセスは一連の動作の有機性を分析的に反映したものだからである。
  - ③ 事務は主体性を欠いた行為ではなく、その全体に意識を向けることができるシステムである。それゆえ、「型」のなかに自己をマッピングすることで正しい目的地にたどり着ける。
  - ④ 「型」は人工的な存在であり、自己と他者との橋渡しする役割を担う。そこで重要なのは、原野を歩くような主体性ではなく、「道」を歩く行為のなかで自分を超越することである。

Ⅲ 次の問題文は『うたたね』の一節である。これを読み、後の問いに答えなさい。

\* 若い貴族との恋に破れた作者は、出奔して尼寺で出家を遂げるが、恋人への未練を断ち切ることができない。相手の冷淡さを恨み嘆きながら、作者はあれこれと思い悩む。

日ごろ降りつる雨の名残に、立ち舞ふ雲間の夕月夜(ゆふづくよ)のかげほのかなるに、おし明け方(注1)ならねど、憂き人しもとあやくなる心地すれば、妻戸は引き立てつれど、門(かど)ちかく細き川の流れたる、水のまさるに(a)や、常よりも音する心地するにも、いつの年にかあらむ、この川に水の出でたりし世(ア)、人しれず波を分けしことなど、たたいまのやうに覚えて、

(A) 思ひ出づるほどにも波はさわぎけり憂き瀬をわけて中川の水荒れたる庭に呉竹(くれたけ)のただ少しうちなびきたるさへ、そぞろに恨めしきつまとなるにや、

世とともに思ひ出づれば呉竹の恨めしからぬそのふしもなし

おのづから事のついでになどばかり、おどろかし聞こえたるにも、一世のわづらはしさに思ひながらのみなむ、さるべきついでもなく、みづから聞こえさせず(1)」など、なほざりに書き捨てられたるもいと心憂くて、(B) 消え果てむ煙ののちの雲をだによもながめじな人めもるとてと覚ゆれど、心の中ばかりにくたし果てぬるは、いとかひなしや。

そのころ心地例ならぬことありて、命も危ふきほどなるを、ここながらともかくもなりな煩はしかるべければ、思ひかけぬたよりにて、愛宕(注2)の近き所にてはかなき宿もとめ出でて移ろひなむとす。かくとだに聞こえさせまほしけれど、問はず語りもあやしくて、泣く泣く門を引き

出づるをりしも、先にたちたる車あり。前はなやかに追ひて、御前(注3)などことごとしく見ゆるを、誰ばかりにかと目とどめたりければ、かの人しれず恨み聞こゆる人なりけり。顔しるき隨身などまがふべうもあらねば、かくとは思しよらざらめど、そぞろに車の中恥づかしくはしたなき心地しながら、いま一たびそれとばかりも見送り聞こゆるは、いとうれしくもあはれにも、さまざま胸静かならず。つひにこなたかなたへ行きわかれ給ふほど、いといたうかへりみがちに心細し。

かの所に行き着きたれば、かねて聞きつるよりも、あやしくはかなげなる所のさまなれば、いかにして堪へ忍ぶべくもあらず。暮れ果つる空のけしきも、日ごろにこえて心細く悲し。宵居すべき友もなければ、あやしく敷きもさだめ十編(注4)の菅薦(すがこ)に、ただひとりうち臥したれど、とけてしも寝られず。

(C) はかなしな短き夜半の草枕むすぶともなきうたたねの夢

注1 おし明け方ならねど、憂き人しもと——「天の戸をおしあけが

たの月見れば憂き人しもぞ恋しかりける」(新古今集)を踏まえる。

注2 愛宕——京都府東山区周辺の地名。

注3 御前——貴人の外出の際、馬に乗って先導する者のこと。

注4 十編の菅薦——菅で編んだむしるで、編み目が十筋あるもの。

問一 二重傍線部 a～dのうち、他と品詞が異なるものはどれか。最も

適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- 29 ① a ② b ③ c ④ d

問四 傍線部ア・イ・ウの意味として最も適切なものを、次の①～④か

らそれぞれ一つずつ選びなさい。

- 32 ア「人しれず波を分けしこと」

① ひそかに波をかき分け会いに来てくれたこと

② ひそかに波をかき分け大水から助けてくれたこと

③ 思いがけず波をかき分け去っていったこと

④ 思いがけず波をかき分け生死をさまよったこと

- 33 イ「おのづから事のついでになどばかり、おどろかし聞こえたる」

① 自らは事の次第など考えずに、突然驚かせるという話を耳にした

② たまたま何かのついでにという程度にして、手紙を差し上げてみた

③ もしかしたら事の次第など考えずに、手紙を送ったと聞いているのか

④ さりげなく何かのついでという程度にして、揺り起こして差し上げた

- 34 ウ「ここながらともかくもなりなば煩はしかるべければ」

① この尼寺にいたままでどうにかなくなってしまったら、寺に面倒をかけるだろうから

② この尼寺にいたままで回復するに違いないので、他所に移るのは面倒ではあるが

③ この尼寺にいたままでどうともならなかったら、他所に移るのは面倒なので

④ この尼寺にいたままでとはにかく安心できないので、寺は面倒だと思っだろうが

問三 波線部2「移ろひなむとす」の文法的説明として最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- 31 ① 動詞＋助動詞＋助動詞＋助詞＋動詞

② 動詞＋助詞＋助詞＋動詞

③ 名詞＋助動詞＋助動詞＋助詞＋動詞

④ 名詞＋助詞＋助詞＋助動詞

問五 (A)の和歌の説明として最も適切なものを、次の①～④から一つ  
 選びなさい。

- ③ 「出づる」は口に出して言うことを、「憂き瀬」は大水の時の  
 つらくやるせない経験をとえている。
- ② 「出づる」は二人の関係が露見することを、「波」「さわぎ」  
 は世間から非難されることをたとえている。
- ③ 「波」「さわぎ」は苦しい内面の動揺を、「わけて」「中川」は  
 二人の仲が離れてしまったことをたとえている。
- ④ 「波」「さわぎ」は運命に翻弄される不安定な境遇を、「わけて」  
 は困難に立ち向かう姿勢をとえている。

問六 (B)の和歌の解釈として最も適切なものを、次の①～④から一つ  
 選びなさい。

- ③ 「煙のような雨が止み、やがて空の雲が晴れたとしても、もは  
 や眺めることはできまいよ。人目が気になると思つて。
- ② 煙のような雨が止み、やがて空の雲が晴れたとしても、決し  
 て眺めてはいけないよ。人目につくと面倒なので。
- ③ 亡くなつて火葬の煙となり、やがて空の雲になったとしても、  
 決して眺めてはいけないよ。見張っている人がいるので。
- ④ 亡くなつて火葬の煙となり、やがて空の雲になったとしても、  
 もはや眺めてはくれまいよ。人目をばかると言つて。

問七 傍線部「さまざま胸静かならず」とあるが、それはなぜか。最  
 も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- ③ 「恋人の薄情さを恨みながらも、偶然に行き会った恋人の車を  
 ひそかに見送るのは、うれしくも悲しくもあつたから。」
- ② 自分がそばにしていると知りながら、声もかけずに去つていつた  
 恋人に対して、怒りや恨みの感情がこみ上げてきたから。
- ③ 冷淡であつた恋人が、自分の身を案じて見舞いに駆けつけて  
 くれたことは、うれしくも悲しくもあつたから。
- ④ 車の中で久しぶりに恋人と会うことができうれしく思う反  
 面、相変わらず冷淡な態度をとるのが悲しかったから。

問八 (C)の和歌で「草枕」が用いられているのはどのような意図による  
 ものか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- ③ 草が生い茂る愛宕の家で、質素に生活していることを表して  
 いる。
- ② 夜が短いので、枕を使わないうちに夜が明けたことを表して  
 いる。
- ③ 自分で編んだ菅薦を枕にし、わびしく夜を明かすことを表し  
 ている。
- ④ 一時的に仮の住まいに移り、そこで夜を明かすことを表して  
 いる。

問九 問題文の内容と合致するものを、次の①～④から一つ選びなさい。

39 ① 恋人の車は都に戻って行ったが、恋人は名残惜しそうに作者の車を見送っていた。

② 尼寺を出る際に作者は恋人に手紙を送ったが、その返事は素っ気ないものであった。

③ 仮に移った家はみすばらしく頼りなさげな様子で、作者は到底辛抱できないと思った。

④ 作者は明け方近くの月を見ながら恋人を恨めしく思い、「世とともに…」の歌を詠んだ。

問十 『うたたね』の作者である阿仏尼の作品を、次の①～④から一つ選びなさい。

40 ① 更級日記

② 風姿花伝

③ とはすがたり

④ 十六夜日記

